

日本質量分析学会における男女共同参画推進の取り組み

日本質量分析学会 男女共同参画推進委員会
(委員長 澤 竜一・(公財)微生物化学研究会)

Annual Report on the Activity of Committee for the Promotion of Gender Equality in the Mass Spectrometry Society of Japan (MSSJ).

The Mass Spectrometry Society of Japan

(Ryuichi Sawa, Microbial Chemistry Research foundation)

Abstract: The 2nd MSSJ Gender Equality workshop was held at the 63rd annual conference in Mass Spectrometry on June 18th, 2015. The theme of the workshop was “The work-life balance from the viewpoint of “Iku-men””. The invited speaker, Mr. Kawashima, the president of Kojikara-Nippon (NPO), emphasized the importance of work-life balance from his personal experience, because not only it makes our life happy but also improves our work performance.

1. 今年度の活動

- (1) 第 63 回質量分析総合討論会において第2回ワークショップを開催し、開催報告書およびアンケート集計結果を HP において公表した。
- (2) 第1回 実践セミナー「研究資金獲得実践セミナー」～がんばる女性マススペクトロメトリストのために～を開催した。
- (3) 第 63 回質量分析総合討論会 (2015 年 6 月 17 日～19 日、大阪) および第 42 回 BMS コンファレンス (2015 年 7 月 6～8 日、岐阜) においてベビーシッターを開設した。
- (4) 「男女共同参画推進委員会」の web ページの更新 (URL: <http://www.mssj.jp/index.html>)
- (5) 演題発表者等の属性調査をおこなった。

2. 第2回ワークショップ開催報告

2015 年度の第2回ワークショップでは、子どもや家族への積極的な関わりが、仕事においてどのような効果をもたらすのか、「イクメン」をテーマに、イクメン・イクボスの旗手 川島高之氏 (NPO 法人コチカラ・ニッポン代表) を招いて、ワーク・ライフ・バランスからワーク・ライフ・インテグレーションへ発展する取り組み方を学んだ。時間が限られる中、パネルディスカッションも行ない、私たちがそれぞれの職場で行なえる取り組みや、日々の疑問・問題点について、参加者・パネリストを含めて有意義な議論ができた。

(1) プログラム

- ・開会挨拶 和田 芳直 (日本質量分析学会会長)
 - ・趣旨説明 澤 竜一 (男女共同参画推進委員会委員長)
 - ・招待講演 川島 高之 (NPO 法人コチカラ・ニッポン代表)
- 「なぜ、私生活の充実と仕事の能力は正の相関なのか？」

・パネルディスカッション

パネリスト

- 川島 高之 (NPO 法人コチカラ・ニッポン代表)
- 澤 竜一 (微生物化学研究会)
- 岡 征子 (北海道大学)

(2) 開催報告書

いつでもどこでも会社の命令に従って働くことが可能と思われていた無制約社員ばかりであった時代から、育児・介護などのため時間に制限のある制約社員が 7 割を占める時代へと移り変わり、国内の大手企業が、イクボス企業同盟に共感参加し活動している現状、表題の「なぜ、私生活の充実と仕事の能力は正の相関なのか？」を、講師ご自身の経験を交えて具体的に分かり易く説明いただいた。

(3) アンケート集計および結果報告書

アンケートを作成するにあたり次の2点を考慮して項目を設定した。

- (a) 参加者の背景情報を把握することで、どのような環境で仕事をされているのか、男女共同参画に対してどのようなお考えをお持ちなのかという事を正確に読み取る。
- (b) 毎年同じ項目を繰り返し質問することで、意識や環境の変化を経時的に把握する。

総参加者数は 27 名で、女性 60%男性 40%の割合。参加者の 95%以上が「男女共同参画」という言葉を知っており、MSSJ における男女共同参画推進委員会の活動に関しては「知っていた」との回答が 70%で昨年に比して大きく前進した。また委員会に対しては、より多くの人々が聞けるプログラム構成を求める意見が寄せられた。

* 開催報告は MSSJ 男女共同参画 HP へ掲載。